

福祉問題

問 村内の所在不明高齢者の確認

答 全員の所在確認済み



篠崎久美子議員

【村内熱中症の状況と対策は】

問

村内での発生状況は。

問

村長

村全体での把握はしていません。北ア広域消防署によると、村内では11名の搬送者。教育現場での発生はありません。

問

村独自の熱中症対策は。

住民福祉課長

声の広報による注意喚起、各保健事業の場における啓蒙、地域包括支援センターを通じての老人家庭への指導等です。



健康体操 元気なお年寄り

問

消防署や村内医療機関等と行政が連絡を取り合う方法は。

住民福祉課長

熱中症として、特には取っていません。

問

熱中症は災害であるともいわれるが危機管理につながる連携システムの必要性は。

住民福祉課長

特に感じてはいません。

【所在不明

高齢者について

村内の状況は。

問

村長

住民登録者のうち100歳以上は8名、全員の所在確認済み。本籍保持者は17名。うち3名は生存。14名は住民登録がない。最高齢は137歳。うち死亡と思われる方は3名。その他は調査中。原因としては届け出がなされていないか、届かなかったか。また、戦争や災害、行方不明等のためです。

問

確認方法・民生委員との連携・今後に向けての対応は。

村長

100歳以上を抽出し個々に照会。民生委員に協力を求めるのは難しいが、今後は法務局等と協議、連携して対応します。

【村長公約について】

問

電動自転車の導入、山岳リゾート観光及びその基盤整備、インバウンド対策の充実に関して、各目的、予算規模、効果、実施時期は。

村長

1台十数万円の電動自転車は百台ほどくらいかと考えます。山岳観光に関して観光局は時代対応を一番の目的としてすすめて参ります。インバウンド対策は観光局のホームページの4カ国語化、局内で対中国基本的戦略形成協議を続けています。10月末〜11月初旬に中国へのプロモーション計画があります。その他既存の国への事業は軌道にのっています。

問

協働による村づくりの具体的施策は。

村長

情報発信、情報公開をすすめます。行政区未加入者と未設置地区の解消が喫緊の課題です。

問

お年寄りへの優しさ施策と子供たちの健全育成の具体案は。

村長

お年寄りへの施策は財政状況により、関係機関と連絡を取りながら実現していきます。子ども達への施策は現在の取り組み事業の継続、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めていきます。